

アドビが長年社内で培った 生産性向上を実現する業務のデジタル化

「以前から取り組んできたグローバルワークと自社プロダクト活用で、アドビはリモートワークでも生産性を向上する柔軟性を獲得しています」

デジタルメディア事業統括本部 営業戦略本部 執行役員 本部長 西山 正一

掲載ソリューション

- Adobe Document Cloud
- Adobe Creative Cloud

本記事のポイント

オンラインでの 共有・コラボレーション



クラウドソリューションにより、場所を問わない情報共有が可能に

コンテンツ完成までの リードタイム短縮



文書の同時閲覧・コメント機能で確認作業の効率がアップ

ワークフローのデジタル化



Adobe Signにより承認作業をセキュアにデジタル化

リアルタイムに アセット一元共有



Adobe Creative Cloudライブラリでシームレスな社内外共有を実現



デジタルメディア事業統括本部
営業戦略本部 執行役員 本部長
西山 正一

コロナ禍により急速に導入が進んだりリモートワーク。多くの企業が突然の事態にとまどい、その運用に課題を抱えている中、私たちアドビは自社プロダクトを活用することで、業務効率を向上させています。その背景には、当社が以前から取り組んできたグローバルな業務のボトルネックを解消するためのデジタル化と、カスタマーゼロによる自社プロダクトの磨き上げという取り組みがありました。本記事では、アドビ社内で培った生産性向上を実現する業務のデジタル化に関して、具体例とその変遷を紹介します。

自社製品の業務活用でコロナ禍の2020年度に過去最高収益を達成

アドビでは現在、全社員がリモートワークを実施しています。1年以上にわたり社員同士が顔を合わせることなく業務を進めてきましたが、生産性は低下することなく、むしろ2020年度には過去最高の収益を達成しています。

アドビはリモートワークにおいて特別なツールを用いず、文書に関する業務にはAcrobat DCやAdobe Sign、クリエイティブコンテンツの制作にはPhotoshopやIllustratorなどAdobe Creative Cloudのアプリケーションといったように、自社プロダクトを業務に活用しています。なぜなら、これらのソリューションはクラウドと一体となっており、オンラインでの情報共有やコラボレーション、承認を容易に実現できるためです。

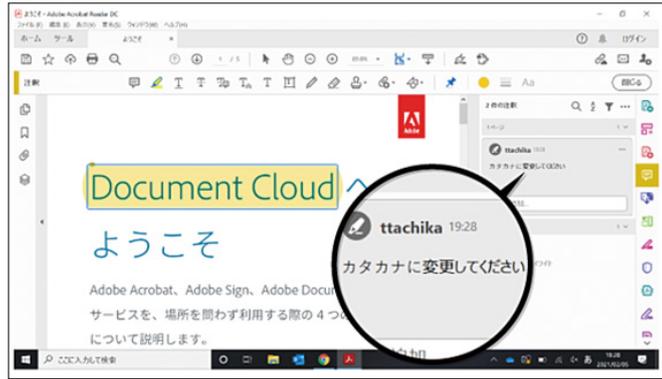
「中でも、当社がもっとも活用しているプロダクトが、Adobe Document Cloudです。Webページやカタログなど、複数部署の担当者がコンテンツを確認する作業には、Adobe Document Cloudが欠かせません」（デジタルメディア事業統括本部 営業戦略本部 執行役員 本部長 西山 正一）

「『PDFをレビュー用に共有』という機能を使うと、たとえば営業部門、プロダクト部門、マーケティング部門の各担当者がクラウド上のPDFファイルに同時進行で注釈を入れながら、コンテンツの完成を目指すことができます。書類をやり取りして確認する方法では時間がかかりますが、この機能を使うと確認作業を短時間でできるだけでなく、ドキュメント上で意見を交わせるので会議の必要もありません」（西山）



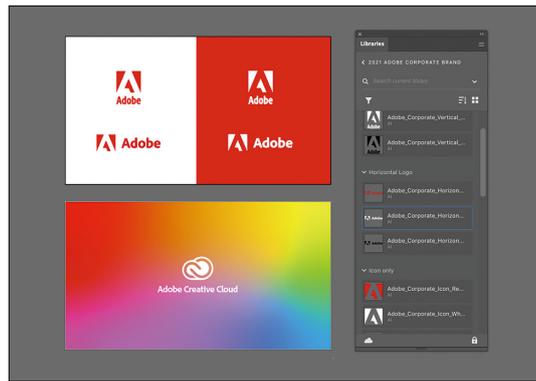
Adobe Document Cloudの「PDFをレビュー用に共有」により、クラウド上でコンテンツの共有・確認が可能に

「また、決裁や承認といった社内稟議のワークフローは、Adobe Signを使って完全にオンラインで実施しています。リモートワークでの利便性はもちろん、高いセキュリティを担保しながらWebブラウザ上で取引先とサインを交わすこともできるため、業務効率の向上にもつながっています」(西山)



クラウド上のドキュメントは複数人が同時閲覧・コメント可能。確認作業が容易になり、コンテンツ完成のリードタイム短縮にもつながる

さらに、自社制作物のブランドガイドライン遵守の点においてはAdobe Creative Cloud ライブラリを最大限に活用しています。自社の正しいロゴデータや広告アセットなどをチームメンバーや社外の制作会社とセキュアに一元共有。PhotoshopやIllustratorなどのアプリケーションから直接利用できるため、ブランディングに変更が生じた場合も常に正しいアセットにアクセスできるので、その都度、配布する手間がかかりません。



Adobe Creative Cloud ライブラリにアセットを登録して一元管理できる

カスタマーゼロによる自社プロダクトの研磨を推進

アドビはコロナ禍によるパンデミックのずっと以前から、自社プロダクトを活用した業務のデジタル化、ペーパーレス化に取り組み、それが文化として根付いています。

「ご存じのように、アドビは米国に本社を置くグローバル企業です。本社とのやり取りは早くからリモートで行われてきましたが、それでも十数年前までは製品パッケージの色校正を空輸してチェックするなど、コラボレーションのための距離と時間が、業務のボトルネックとなっていた時代がありました。当社にとってデジタル化は、こうした業務のボトルネックを解消し、生産性を高めるために必要不可欠なものでした。特に、2012年にビジネスモデルをパッケージからサブスクリプションへ舵を切ったところから、市場の変化に対し、より一層スピーディに対応するために、さらなる生産性の向上に取り組んできました。日々の業務を最適化することが、コロナ禍を乗り越える業務環境の構築へとつながっていったのです」(西山)

コロナ禍でリモートワークを余儀なくされた多くの企業と同じように、アドビも社員の誰もがとまどいながら新しい働き方に取り組むことになりました。しかし、それでも生産性を落とすことなく、さらなる成長を達成できたのは、以前から当社が取り組んできたデジタル化によって、急激な変化にも対応できる柔軟性を獲得していたからにほかなりません。

そして、アドビはカスタマーゼロとして社員一人一人が自社プロダクトのユーザーとなることで、それを活用しながらデジタル化に取り組み、プロダクトと共に成長してきました。今後も生産性向上のためのデジタル化を進める一方、自社プロダクトと真摯に向き合い、そこで得た気づきをフィードバックし研磨することで、ソリューションの改善に努めていきます。



アドビ株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2
ゲートシティ大崎イーストタワー
www.adobe.com/jp/

Adobe
345 Park Avenue
San Jose, CA 95110-2704
USA
www.adobe.com